

藤沢市御幣山遺跡第9次調査 発掘調査現地見学会資料

平成31年(2019)3月10日(日)
主催：ふじがおか活々交流株式会社
共催：藤沢市
調査会社：株式会社玉川文化財研究所

1. 御幣山(おんべやま)の地名由来

御幣山地名の由来は、江戸時代後期の文献に記されています。その記録によれば、道教律師が感応院を開く前後の頃(1213～1218年)、御幣山台地の北西端に位置する感応院境内に祀られている三島明神から白い気体が立ちのぼり、白い幣となって東南方向にある山の頂上まで飛び去ったことが地名の由来とのことです。なお、江戸時代の終わり頃には「おんべいやま」あるいは「おんぺいやま」と言われていたようです。最近では、「おんべえやま」・「おんべやま」と呼称されることが多いようです。

2. 御幣山の歴史と第9次調査の成果 ※年代は神奈川県史によりました。

【江戸時代】西暦1590年～1867年(429～152年前)

江戸時代初期に東海道が整備され、江の島道や大山道が交わる藤沢宿は大いに繁栄します。その頃、御幣山は幕府直轄の「御林(おはやし)」となったことが記録に書かれていますが、詳細はわかっていません。

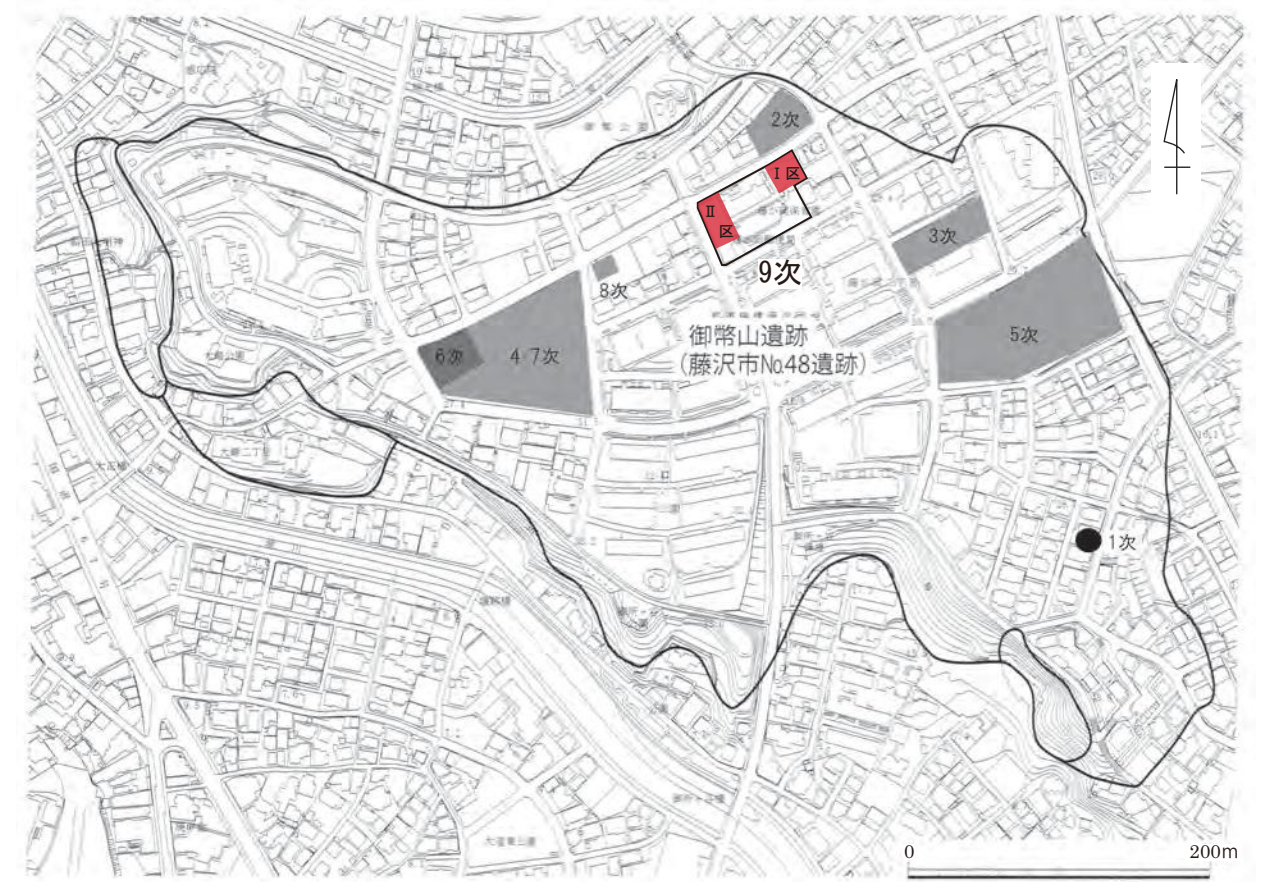
第4次・6次調査では、江戸時代の掘立柱建物址や溝状遺構が発見されています。

【鎌倉～室町時代】西暦1180年～1590年(839～429年前)

御幣山周辺は鎌倉～室町時代、村岡郷と呼ばれる地域でしたが、この村岡郷の名前が出てくる資料は、鎌倉時代になってからです。東京都東村山市の徳蔵寺にある板碑には、元弘3年(1333)に新田義貞の軍勢にいた飽間三郎(あきま さぶろう)らが鎌倉に攻め込む際に村岡郷で討ち死にしたことが記されています。ちなみ村岡郷には鶴岡八幡宮寺の所領が点在していたことが知られています。

戦国時代になると村岡郷にも小田原北条氏により城郭が築かれます。小田原北条氏の東相模の拠点(玉縄城(鎌倉市城廻一帯))ですが、西側の備えとして「二伝寺砦(にでんじとりで)」・「高谷砦(たかやとりで)」・「大塚烽火台(おおつかのろしだい)」、そして御幣山には「御幣山砦」が築かれます。御幣山砦は記録によると、永禄12年(1569)の武田信玄による小田原攻めの際と、天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めの際に2回落城しています。城主である大谷公嘉(おおたに きんよし)は永禄12年の時は小田原城に籠城しており、御幣山砦に在城していませんでした。そして天正18年、大谷公嘉は御幣山砦に籠城することなく、上野国西牧城(群馬県下仁田町)の守備を任せられ、そこで討ち死にします。御幣山砦は小田原落城後、使用されることなく廃城したと考えられています。

今回の調査では、土坑1基、溝状遺構4条、陶磁器小破片数点が発見されました。現在調査中のⅡ区4号溝状遺構からは、馬と考えられる歯の破片と陶器破片が出土しました。陶器は小破片ばかりですが、1200年代～1400年代頃に現在の愛知県常滑・瀬戸方面で作られた甕や皿の一部であることが分かりました。第6～7次調査では、4号溝状遺構とつながる可能性のある溝状遺構が発見されており、今回の調査によってこの溝状遺構の長さは約280m以上あったらしいことが分かりました。また、御幣山東側の第4・7次調査では、室町～戦国時代頃の掘立柱建物址が発見されています。



御幣山遺跡の範囲と第1～9次調査地点の位置(1:5000)

【弥生時代後期～古墳時代前期】約1800～1600年前

弥生時代後期(約1800年前)～古墳時代前期(約1600年前)になると、堅穴住居址や掘立柱建物址、方形周溝墓などが第1・3～8次調査で発見されました。この時代の御幣山には、東側と西側にそれぞれ集落・墓域が形成されていたらしいことが分かります。第6次調査では堅穴住居址から銅鏃1点が発見されています。

【縄文時代草創期～中期】約10000～5000年前

縄文時代の遺構・遺物は、御幣山東側と北側の第1・2次調査地点から発見されています。第1次調査では、早期(約7500年前)～中期(約5000年前)の土器・石器、中期頃と考えられる堅穴住居址の一部が発見されました。今回の調査区北側に位置する第2次調査では、縄文時代草創期後半(約10000年前)の調理施設と考えられる集石土坑や土器・石器が発見されました。この土器は、表裏縄文土器と呼ばれる内面にも文様のある特徴的なもので、今回の第9次調査でも、表裏縄文土器の小破片約90点が発見され、そのほか石器類約20点、礫約900点が出土し、性格不明の落ち込み73基(小さな柱穴のようなもの71基、やや大きな土坑状のもの2基)が発見されました。

【旧石器時代】約30000～20000年前

御幣山北東側の第2・5次調査では、関東ローム層(赤土)の中から石器集中ブロックや、蒸し焼き料理などに使われた礫群が発見されました。今回の調査でも、これまでに石器集中ブロック2カ所と礫群1カ所、石器類40点以上が発見され、現在調査中です。藤沢市内からはこれまでに50カ所以上の旧石器時代遺跡が確認されており、御幣山遺跡は市域の南東端に位置する遺跡です。

<御幣山地名の由来が記された文献>

①小川泰二著 文政 13 年 (1830) 『藤沢名所図会一我がすむ里一』

「御幣山 (おんべいやま) (中略) この山を御幣と呼び来りし事ハ、むかし建保年間道教律師三島明神へ参籠の時、夜半の此不思議の白気祠のうちより立登り、空中にて白き幣と化し巽位をさして飛去り、此山にとゞまる、この奇瑞より御幣山と呼なせり (以下省略)」 (37 頁)

②平野道治編著 天保 13 年 (1843) 『雞肋温故』

「御幣山 (ヲンペイヤマ) (中略) 昔、建保年間道教律師、滝川の辺に止宿して夜半に三島明神の社の辺より白気立登り、辰巳の方に靡き空中にて白き幣と化して去りぬ、考ふる、比山の上にて白幣と化したる故にかく称するもの歟 (以下省略)」 (76 頁)

③日本地名研究所編 昭和 62 年 (1987) 「大鑑の地形と地名」 『藤沢の地名』 藤沢市自治文化部市民活動課

「御幣山は小字御幣にある小高い山で、建保年間 (1213 ~ 19) に道教律師が御幣山の山麓の滝川のあたりに泊まったおり、夜半に三島明神の社のあたりから白気が立ち登り、白い御幣と化して飛び去ってこの山にとどまったところからこの地名がついたといわれています。」 (128 頁)

註・①、②: 藤沢市文書館編 昭和 51 年 (1976) 『藤沢市史料集 (二)』 から引用。

- ・建保年間: 建保元年 (1213) ~ 建保 7 年 (1219)。順徳天皇・後鳥羽上皇、将軍源実朝・執権北条義時の時代。
- ・道教律師: 建保 6 年 (1218) に源実朝のもとで感応院を開いた僧。
- ・三島明神、三島明神: 建久 4 年 (1193) に源頼朝が伊豆国三島大社を勧進。現在は感応院の境内に祀られている。

I 区 縄文時代



①同一個体土器破片の出土状態 ②土器の口縁部破片 ③土器の胴部破片 ④土器の胴部破片



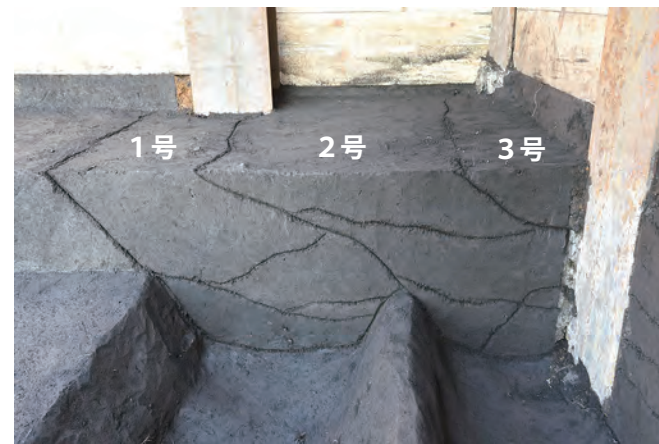
⑤石鎌 (長さ 1.2cm) ⑥敲石 (長さ 10.5cm)

今回の調査では、北側の第 2 次調査と同じく草創期後半の表裏縄文土器が発見されました。また、土器のほかに石鎌、打製石斧、敲石などの石器とともに、900 点を超す大量の礫が出土しました。礫は焼けて赤化し、破碎したものが主体となります。

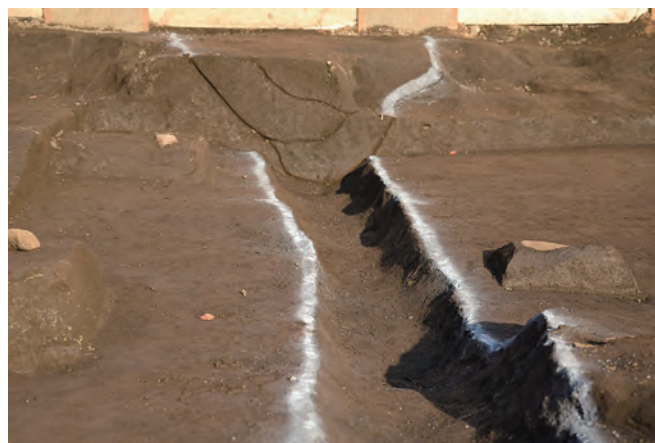
I 区 鎌倉～室町時代



① 1 ~ 3 号溝状遺構



② 1 ~ 3 号溝状遺構の土層堆積



③ 4 号溝状遺構と土層堆積

I 区からは、調査区北側の現行道路に並行する 4 条の溝状遺構が発見されました。3 条 (1 ~ 3 号) は重複して造り替えられた状態が認められました。II 区からも、4 号溝状遺構の続きと路面の一部のような硬化面が発見されており、現在調査中です。なお、第 6 ~ 8 次調査では、1 ~ 3 号または 4 号溝状遺構に続く遺構が発見されています。

I 区 旧石器時代



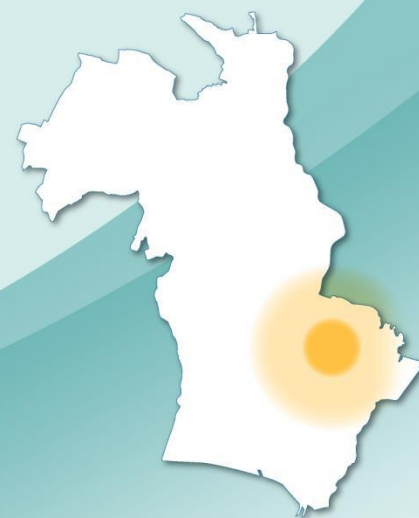
①尖頭器 (長さ 5.8cm) ②ナイフ形石器 (長さ 3.5cm) ③黒曜石の剥片 ④凝灰岩の剥片



⑤凝灰岩の剥片 ⑥安山岩の剥片

現在、I 区では 2 か所の石器集中ブロックの調査を行っています。石器は関東ローム層の中から出土し、これまでに尖頭器やナイフ形石器のほか、多量の剥片が出土しています。剥片は、石器製作時の石屑や石器素材です。尖頭器とナイフ形石器は、剥片を素材として作成された狩猟具と考えられる石器です。

藤沢市藤が岡二丁目地区再整備事業について



事業コンセプト



この事業は藤沢市藤が岡二丁目にあった「藤が岡保育園」の建て替えにあわせて、保育園周辺の公共施設等を集約した複合施設として整備する事業です。2021年4月の開業を予定しております。

民間施設

- ☆クリニック
- ☆薬局
- ☆フィットネス
- ☆放課後等デイサービス
- ☆小規模多機能型
居宅介護施設



公共施設

- ☆保育園
- ☆つどいの広場
- ☆市民の家
- ☆放課後児童クラブ
- ☆地域子どもの家
- ☆コミュニティスペース
兼安全安心ステーション

藤が岡“スマートウェルネスタウン”

01

子育て
支援

子どもたちを守り育む
コミュニティの醸成

誰もが安心して
子育てができる

02

健康維持
介護予防

健康で安心な
暮らしの享受

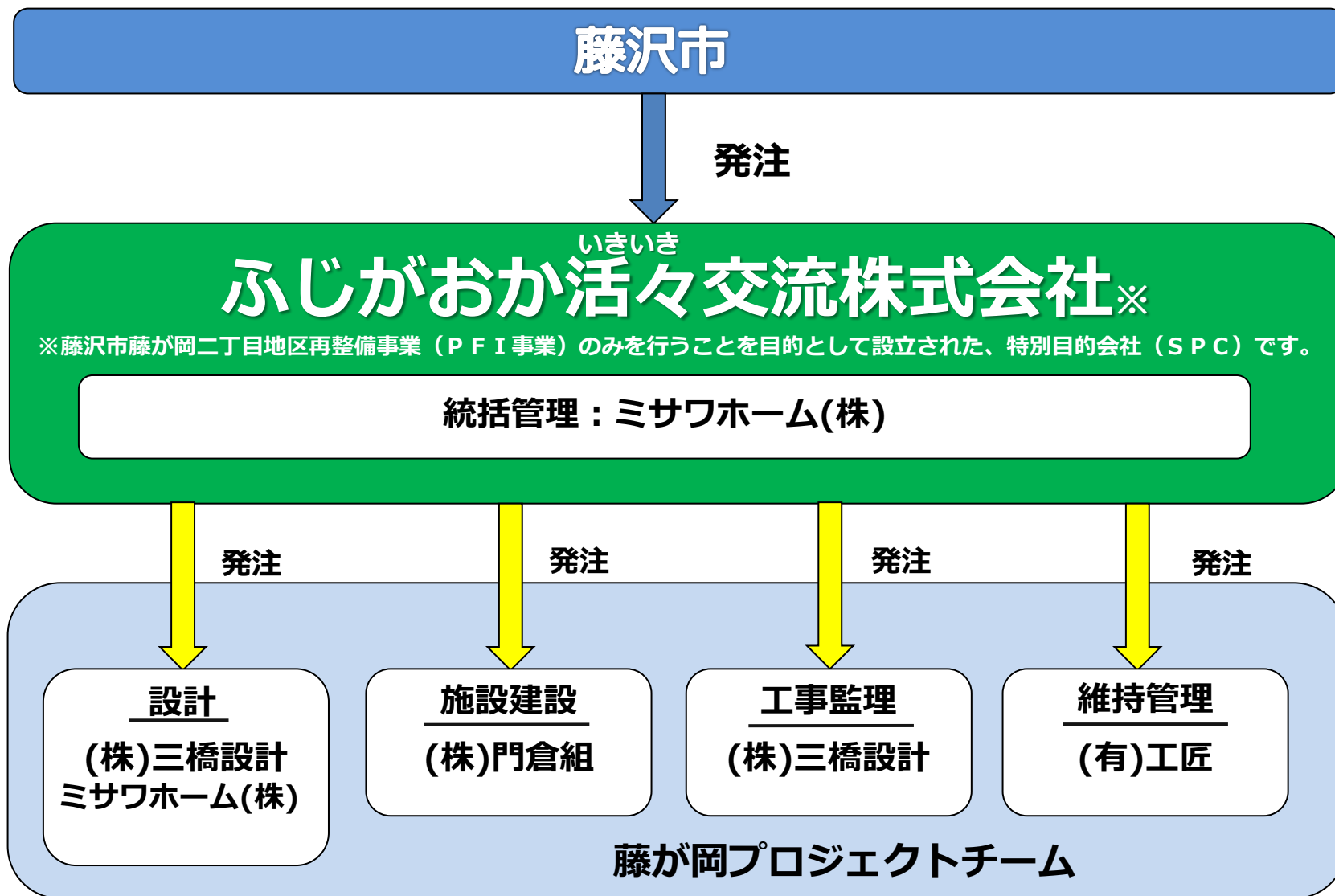
健康づくりや
介護予防に取り組む
ことができる

03

多世代
交流

藤が岡から始まる
新たな交流のかたち

様々な多世代交流が
促進される



イメージパース



南西側イメージ

